

大池中学校区の学校再編に向けた説明会 開催結果

1 日 時 令和2年10月29日(木) 午後7時から午後8時15分

2 場 所 大阪市立舍利寺小学校多目的室

3 参加者 10名

4 出席者

(学校園)

庄司舍利寺小学校長

(教育委員会事務局)

山口生野区長兼生野区担当教育次長、櫻井生野区副区長兼生野区教育担当部長、樋口総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、大川生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、川楠生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部教育政策課生野区教育担当課長代理

5 説明概要

- ・説明資料に沿って説明を行った。

6 質疑、意見等の概要

(参加者 A)

- ・資料 P. 9 に新たな学校の児童数の見込みがあるが、学級編成はどうなる見込みか。

→ (回答)

- ・大阪市では、小学1、2年生については1学級35名まで、小学3年生以上の学年については1学級40名までの編成としており、新たな学校でも同じ基準で運用されることとなる。ただし、今後、感染症対策等のため、国の基準が変更されることがあれば、新たな基準に対応していくこととなる。

(参加者 B)

- ・新たな学校の標準服は支給されるのか。

→ (回答)

- ・学校再編により、買い替えが必要となる標準服については、行政の負担により貸与という形で準備させていただく。

(参加者 B)

- ・通学路は必ず校区内のみを通っていくルートとしないといけないのか。

→ (回答)

- ・校区内しか通ってはいけないという決まりはなく、通学路の設定については学校長とも相談のうえ、検討を進めている。
- ・学校適正配置検討会議(以下、検討会議)にてご意見をいただき、安全対策や必要に応じてルート変更を行う等、安全な通学路とできるよう柔軟な対応を行っている。

きたい。

(参加者 B)

- ・登校時は集団登校ができるが、下校時はばらばらで帰宅することとなるのか。

→ (回答)

- ・下校時刻等の学校の決まりに則って下校を行っていただくこととなる。

(参加者 B)

- ・住宅街は人の目がなく、人目が多いところは車が多い。ガードレールの設置等の対策も行ってほしい。スクールバスの運行はないのか。

→ (回答)

- ・保護者、地域住民の方と一緒に通学路の現地確認も行い、ご意見をいただきながら対策を検討していくので、ご協力をお願いしたい。
- ・スクールバスについては、通学距離が最長 2 km 以上の校区であることが、運行のための市の基準となっている。今回の生野区西部地域の学校再編では、2 km 以上の通学距離を設定しているケースはないので、スクールバスの運行の予定はない。

(参加者 B)

- ・通学路の現地確認を行うにあたっては、登下校時に合わせた時間帯で行ってほしい。

(参加者 C)

- ・先ほど、標準服が「貸与」されるという説明があったが、紛失や破損時には再貸与があるということか。それとも、その場合は保護者が購入することとなるのか。

→ (回答)

- ・再貸与とはならない。学校再編により、買い替えが必要となった分を貸与するという形になる。

(参加者 C)

- ・大池中学校区に居住する児童がごく少数となっている学年もある。御幸森小学校・中川小学校が先行して令和 3 年度に再編し、すでに友人関係、人間関係ができていた環境に、ごく少数の児童で入っていく形となるが、児童へのケアはどうなるのか。

→ (回答)

- ・ご質問のようなご懸念があることについては認識しており、児童同士の学校間交流を図ってきたところであるが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策もあり、実現していない。令和 3 年度に大池小学校は開校するが、小中一貫校として本格的に始動する令和 4 年度に向けて、計画的に取組みを行っていききたい。

(参加者 C)

- ・ユネスコスクールの認定について、もっと具体的に知りたい。

→ (回答)

- ・ユネスコ憲章に賛同した持続可能な社会づくりに向けた取組みを行う学校として申請を行い認定されればユネスコスクールとなる。現在、御幸森小学校が認定され

ているが、新たな学校にそれを自動的に引き継ぐということはできず、新たに申請を行っていくこととなる。ユネスコスクールの取組みが子ども達に必要なものか否かも含めて再度吟味を行っており、子ども達が世界的な視野をもち、多文化共生のまちからどのような社会をつくっていくことが大事かを発信していけるような学校づくりを小中一貫校として検討している。小中一貫校として開校する時期に改めて申請を行う予定としている。

(参加者 C)

- ・ユネスコスクールの具体的な取組み内容はどのようなものか。

→ (回答)

- ・自分のルーツとなる国の文化を学ぶであるとか、世界のユネスコスクール同士の交流を行う等の取組みを行っている。

(参加者 D)

- ・生野中学校にきょうだいが入籍しているので、大池中学校区に居住しているが、下の子どもも生野中学校区の新たな学校に進学させたい。

→ (回答)

- ・生野区内のすべての小・中学校を対象とした学校選択制を、令和4年度新入生から導入することを予定している。学校選択制には各校の受入枠があるので、必ず希望した学校に入学できることを保証するわけではないが、仮に抽選となった際には、きょうだい関係による優先条件がある。

(参加者 D)

- ・中学校進学前でも、きょうだい関係によって生野中学校区の学校に変わることはできるのか。

→ (回答)

- ・ご意見をいただいたことを受け、どのような措置がとれるか検討したい。

(参加者 D)

- ・学校選択等ができる時期となれば、保護者にお知らせをしてくれるのか。

→ (回答)

- ・御幸森小学校・中川小学校の再編にあたり、自宅より近い学校に行きたいという希望を受け、特例で指定校変更ができる制度を設け、ご案内も行った。いただいたご意見について、対応が可能か検討し、制度利用の際にはご案内をさせていただく。

(参加者 E)

- ・友人と同じ生野中学校区の新しい学校に通いたいが、再編時に大池中学校区の小学校か生野中学校区の義務教育学校かを選ぶことはできないか。

→ (回答)

- ・基本的には、学校選択制は新入学時が対象となるが、学校再編の時期に限り学校選択ができる形とできないか検討をしたい。

(参加者 E)

- ・きょうだいで違う学校に通うこともできるのか。

→ (回答)

- ・学校選択制を利用すれば、別の学校に通う希望を出していただけるが、保護者のご負担の面からも、きょうだいで同じ学校に通うとされる場合が多い。

(参加者 F)

- ・資料 P.13 にあるコース分けについて詳しく知りたい。
- ・資料 P.14 にある小学校高学年からの部活動とは、どのような関わり方となるのか。

→ (回答)

- ・現在、どの小学校においても、小学3年生以上では習熟度別学習を行っている。教員を1名追加で配置し、その人員により学年を分散展開し、児童の習熟度に合わせた指導を行っている。

(参加者 F)

- ・コース分けにより学力に差がうまれることとならないか。

→ (回答)

- ・特に低学年では、「わかった、できた」の経験をすることが重要であるので、習熟に応じた学習をすることで、差がうまれるというより、できることが増えるという面が強い。

(参加者 F)

- ・高学年ではどうか。

→ (回答)

- ・学習の積み上げの振り返りを個々の状況に応じてフォローできるという利点がある。
- ・小学校高学年からの部活動については、連携型小中一貫校となるので、移動等の安全面を最優先し、児童の希望も踏まえながら、週に数回中学校に通ってできる内容の活動を検討している。また、吹奏楽部等のリモートによる活動ができる部については活用し、リモートの取組みをどの学校よりも充実させていきたい。

(参加者 F)

- ・中学校の教員が小学校の教員をフォローするという内容についても詳しく聞きたい。

→ (回答)

- ・教員の加配も行い、普通ではあまり行われたい、中学校進学後も小学校の教員がフォローを続ける形をとっていきたい。加配の教員を活用し、小学校の教員が中学校に来る、中学校の教員が小学校に来る、小学校高学年においては教科担任制を用いていく構想となっている。

(参加者 F)

- ・(再質問) 現状は構想の段階で確定ではないということか。

→ (回答)

- ・ 確定ではないが、その方向をめざして調整を行っていきたい。

(参加者 G)

- ・ 現在の舎利寺小学校の教員が新たな学校に配属されることは可能か。

→ (回答)

- ・ 教員本人の希望もあるが、舎利寺小学校の教員の枠も用意しながら、計画的な人事異動を行っていく。いただいたご意見も踏まえ、学校長の意見を異動の検討に載せてもらうという形となる。